

令和8年度 小樽市立望洋台小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

3年生が国語（正答率71.1%）、算数（同75.4%）ともに目標を達成し、基礎の定着に成果が見られた。一方、5年生は算数で全国比5.9Pとなり目標に届かず、特に図形領域が課題である。6年生の全国調査では、国語は全国比+0.2P、算数では-7.0Pとなり算数科で全国との開きが見られた。また、「情報の読解」で全国を33.2ポイント下回るなど、記述・分析力に深刻な課題があった。全体では、国語・算数ともに学力の個人差が大きいことが経年比較から判明しており個に応じた指導・支援と家庭学習の習慣化が急務である

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

| 学年 | 定着目標 |
|----|---|
| 1年 | ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 2年 | ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 3年 | ・標準学力調査全国平均以上、または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 4年 | ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 5年 | ・標準学力調査全国平均以上、または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 6年 | ・全国学力・学習状況調査全国平均以上、または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |

<算数科>

| 学年 | 定着目標 |
|----|--|
| 1年 | ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 2年 | ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 3年 | ・標準学力調査全国平均以上または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 4年 | ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 5年 | ・標準学力調査全国平均以上または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |
| 6年 | ・全国学力・学習状況調査全国平均以上または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。 |

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

| 学年 | 定着目標 |
|----|--|
| 1年 | ・20分以上の家庭学習達成率60%以上 ・宿題提出率100% ・21時以降のメディア利用停止率90%以上 |
| 2年 | ・30分以上の家庭学習達成率60%以上 ・宿題提出率100% ・21時以降のメディア利用停止率90%以上 |
| 3年 | ・40分以上の家庭学習達成率50%以上 ・宿題提出率100% ・21時以降のメディア利用停止率90%以上 |
| 4年 | ・50分以上の家庭学習達成率50%以上 ・宿題提出率100% ・21時以降のメディア利用停止率90%以上 |
| 5年 | ・60分以上の家庭学習達成率40%以上 ・宿題提出率100% ・21時以降のメディア利用停止率90%以上 |
| 6年 | ・70分以上の家庭学習達成率40%以上 ・宿題提出率100% ・21時以降のメディア利用停止率90%以上 |

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学習規律、端末のきまり、学習環境の整備
- ②教科を貫く基礎・基本を押さえた学習活動
- ③算数科における習熟度別少人数指導、T・Tの実践
- ④「スマイルドリル」「チャレンジテスト」「確認テスト」の実施

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽授業づくり5つのSTEP!!」に基づく、1人1台端末を効果的に活用した子ども主体の授業づくりの工夫（校内研修を軸として）
- ②学習規律を基盤とし、「小樽 授業づくり5つのステップ」に基づいた授業実践
- ③「児童と学習のゴールを共有する」「児童が自己選択・決定・調整する場を設定する」「児童が学んだことを働かせる場を設定する」という視点を取り入れた授業づくりの工夫

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①学年の応じた家庭学習の目的・内容等の周知、定期的な各学級の取組状況の確認（家庭での学習習慣がない児童を0にする。宿題提出率100%）
- ②端末を活用した家庭学習の取組の啓蒙、工夫
- ③「生活リズムチェックシート」を活用した学習・生活習慣の改善
- ④各家庭でテレビ視聴、ゲーム・携帯等の時間についてのルールづくりの啓蒙（スマート7等）

(4) その他

- ①「発達支持的生徒指導」を基盤とした、学ぶ意欲・自己存在感・自己有用感の高揚、共感的な人間関係づくり

4 実施計画

| 年月日 | 計画内容 |
|-----|--|
| R8年 | ・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施 |
| 4月 | ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・スマイルドリルの年度更新 ・学力向上改善プラン共通意識及び ○R8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年） |
| 5月 | ・学級経営案に基づいた児童理解交流 |
| 6月 | ・生活リズムチェックシートの活用 |
| 7月 | ○標準学力調査結果分析 ・1学期「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・学校評価の実施、分析・冬休み学習会 ・児童理解支援ツール「ほっと」の実施 |
| 8月 | ・改善プランの取組検証 ・児童理解支援ツール「ほっと」結果を受けた改善策 |
| 9月 | ○R8全国学力・学習状況調査結果分析 |
| 10月 | ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善 |
| 11月 | ・公開研究会実施 ・生活リズムチェックシートの活用 |
| 12月 | ・2学期「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・学校評価の実施、分析・冬休み学習会 ・児童理解支援ツール「ほっと」の実施 |
| R9年 | ・児童理解支援ツール「ほっと」結果を受けた改善策 |
| 1月 | ・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成 |
| 2月 | ・3学期「確認テスト」の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・学校関係者評価の実施と公表 |
| 3月 | |

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

①児童アンケートの実施 ②～④学期毎にチャレンジテストと確認テストを実施、評価、改善策の立案

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

①②標準学力調査結果の経年比較・分析、改善策の立案、全国学力・学習状況調査結果を経年比較・分析、改善策の立案

③学習意欲や理解、家庭学習の取組状況等の把握と改善策の立案、校内研修での振り返り

④各種アンケート（児童・保護者・教職員）の実施、結果分析と改善策の立案

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

①研究部による確認

②～④生活リズムチェックを4月、8月、1月に行い、生活実態等を評価、改善策の立案

⑤新しいわたちの学びの授業力向上推進事業取組振り返りシートの活用

(4) その他

①校内研修を実施、実施後のアンケート（児童・保護者・教職員）を基にした振り返り